

グループ紹介

きらめきダンスクラブ



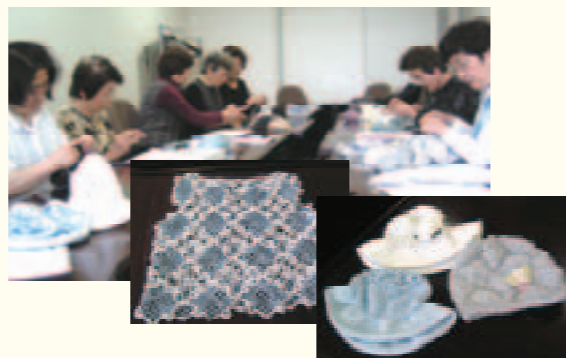
生涯学習センターきらめき講座の第1回・第2回目の「社交ダンス入門」を修了した有志が、もっとダンスを踊りたい、踊る場がほしいと立ち上げたのが「きらめきダンスクラブ」。教えたり指導を受けたりするのではなく、今までに習ったことを忘れないように復習を重ねていこうというのが目的の、気楽で楽しいサークルです。現在、男女20人ほどで毎週生涯学習センターきらめきの多目的スタジオで、和気あいあいと踊っています。

スロー・スロー・クイック・クイックとワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャなどお互いに気楽に注意し合いながら汗を流しています。そうすることで少しずつですが進歩していく様子がわかり、サークル作りをして本当によかったと思っています。

社交ダンスには、スタンダード(モダン)種目とラテン種目があって、スタンダードはLOD(踊りの流れの方向線)に沿って踊ります。しばしば逆行する組がありぶつかりますが、自然に覚えていきます。ラテンにはLODはありませんが、フロアの広さを考えて踊ることが、身につくように練習しています。

こんなきらめきダンスクラブが第二のサークルをつくりました。初心に戻ってモダンのウォークやラテンのウォークなどを初歩からやってみようというのがその目的です。歩けるようになるとソーシャルダンスは50%できていると言われます。いつか素敵な笑顔で踊る日を想像して、今日も楽しく踊り続けています。興味のある方は生涯学習センターきらめきの多目的スタジオを一度のぞいてみてください。

編み物同好会



初めまして。私たちは「編み物同好会」の仲間です。この同好会を作ったきっかけは、生涯学習センターきらめきでの各種講座で知り合った仲間が時間待ちのロビーで雑談している時に、「編み物が大好き！作るのが楽しみ！」という話が出たことです。現在、生涯学習センターきらめきで、毎週水曜日の午前に活動しています。会員は十数人いますが自由に参加しています。

同好会を作って1年あまり経ち、今までにいろいろな作品を創りました。帽子、ベスト、セーター、カーディガン。また、ネクタイ利用のネックレス、着物から作務衣、新聞紙のカラーページからブローチ、布ぞうりなどで、ほかにもたくさんあります。ボランティアで毛糸の帽子を編んで病院にプレゼントをして、治療中の患者さんに喜ばれており、この活動は今も続いています。

それぞれが思い思いの作品を自由に考えて素材選びをして楽しんでいます。編み方、作り方を間違えたときは、今までの苦勞がすべてゼロ、初めからやり直しということもあります。しかし作品が出来上がったときの喜びは最高です。プレゼントをした相手から「うれしい。ありがとう」と喜んでもらうと苦勞も吹き飛びます。

手先を動かし、編み物では目数や段数を数え、ときにはみんなで楽しいおしゃべりをするということは、老化防止にもつながるのでないかと、これからも続けられる限り活動していきたいと思っています。

今年の目標は、生涯学習センターきらめきの展示コーナーでの作品展！！多くの皆さんに見ただけの作品を作り上げるべく、ガンバロー！と話し合っています。

市民インタビュー

この人に会いたくて



第35回

茨木市民の中から「いきいき生活の達人」を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

イラストレーター

トヨクラ タケルさん

茨木市で活躍しているイラストレーターがいます。ほとんどのイラストレーターが東京で活動する中、トヨクラさんは、あえて制作の拠点を茨木市の自宅に構えて、数多くの作品を世に送り出しています。トヨクラさんのアトリエでお話を伺いました。

絵を描くことに興味を持たれたのはいつ頃ですか。

小さい頃から絵を描くのが好きでした。祖母が日本画家で、親戚にも絵を描く人がいたからでしょうか。母親は音楽教師で家でもピアノを弾いていましたので、芸術的な環境はよかったです。

元々は、司法の道を目指しておられたのですか。

絵を描くことが大好きで、美術大学へも行きたかったのですが、それを自分の職業として考えたとき、ちょっと無理ではないかと思っていました。祖父が弁護士でしたから、絵は趣味としておいておき、職業としては司法の道を選んだほうが生活は安定するだろうと。周りの勧めもあり、大学は法学部を選び、弁護士になるための勉強を始めました。

それが大学4年生の12月だったと思いますが、あることがきっかけで絵の方に行くことになったのです。友達のおじさんの「興味があるんだったら、職業として絵の道に進んでもいいのではないの」。この何気ない一言が、それまで心の中でふたをしていた絵への情熱を呼び覚まし、ダムから水があふれ出るように、絵を描きたいという気持ちが膨れ上がってきたのです。実際、司法の勉強は私にとってあまり楽しいものではありませんでした。1週間考えた末、絵の道を選び、専門学校に通うことになりました。とりあえず、2年間は全力でトライしてみようと。しかし、生活を家族に頼ることはしないで、職業として成り立つことをしようと絵のジャンルを問わず選択肢を広げ、考えた末、イラストレーターに挑戦してみようと思いました。

どのような絵を描いておられるのですか。

私の作品は、紙やフェルトを使った切り絵が主です。最近では、銀行のキャッシュカードや、本の表紙、ホームページ、Tシャツ、電車の車内刷りなどにイラストを

使っていただいています。作品は、人々の心を動かせるよう、心を込めて制作しています。また、作品を通して自分と社会とがつながってられるように、常に私の絵を見てくれる人々を意識して創っています。

作品の根底に流れているものは何ですか。

驚かせたいということでしょうか。小学校の時、夏休みが終わって、始業式に宿題の絵や工作などを持っていく時、「これを見たらみんな驚くだろうな」と想像している時の自分の気持ち。そんな感覚で今も制作しています。

トヨクラさんが描いておられるビジョンを教えてください。

イラストレーションはとても面白く、やり甲斐があります。今は、すごく楽しいですね。理想を言えば、何の制約もなく、自分の好きな絵を描いて生活できることが一番でしょうが、なかなか難しいです。しかし、将来的には、自分の意志で描いた絵を買ってもらえるという、私にはそれを「絵描き」と言ってるんですが、そういう仕事ができるようになればさらに幸せかなと思っています。

絵を描き続けるということは、なかなか大変なことだと思いますが、それでも一生続けたいですね。いずれは、海外での個展、それもニューヨークでぜひやってみたいです。それが一番近い目標ですね。

